

日 時 令和5年6月20日（火）13:30～15:55（オンライン会議）

新たに就任した山城委員、石原委員、福治委員、東矢委員から就任のあいさつがあった。  
令和4年3月16日開催の令和4年度 第4回 経営協議会議事要旨（案）について確認があり、了承された。

## 審議事項

### (1) 令和4年度業務実績等報告書について

木暮理事から、資料に基づき提案説明があった。

学外委員との間で以下のような質疑応答があった。

○非常に読みやすく整理されており、30ページ以降の詳細版も振り返りに役立つと考える。

2030年までに達成を目指している「琉球大学の中期将来ビジョン」の具体的な取組であるビジョン計画の進捗が分かるものもあるとなお良い。

→進捗が分かるような表現を工夫していきたい。

○学校教育法109条は認証評価の規定であり、法人評価とは無関係なので、根拠はそこに求めない方がよい。この報告書による自己点検・評価は法律とは関係なく、大学の総体としての活動を国民に対して提示していこうと考えればよいのではないかと。

また、以前から申し上げているが、琉球大学の資源配分マネジメントの状況が分かるように工夫してほしい。

→根拠規定について確認する。また、資源配分マネジメントについても財務部において検討しており、今回の令和4年度決算（案）においても、徳永委員からのご指摘をふまえた改善を行っている。

審議の結果、原案のとおり了承され、その後の軽微な修正については議長に一任された。

### (2) 令和4年度決算（案）について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

### (3) 琉球大学における令和6年度概算要求について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

### (4) 国立大学法人琉球大学学長選考・監察会議委員の選出について

大城理事から、資料に基づき提案説明があった。

審議の結果、原案のとおり了承された。

## 報告事項

### (1) 千原学生寮及び国際交流会館の改修等に伴う長期借入金に係る令和4事業年度の償還状況について

大城理事から、資料に基づき報告があった。

### (2) 令和4年度卒業生・修了者の進路状況について

石原理事から、資料に基づき報告があった。

学外委員との間で以下のような意見交換があった。

○教員のなり手が減少していると新聞報道がなされているが、琉球大学教育学部においても、このような傾向があるか。

→全国に比して、沖縄の教員志願倍率は高い状況になっていると把握しているが、傾向までは把握していない。教育学部に確認したうえで回答したい。

- 琉球大学の学生の中でインターンシップに参加している者の割合とインターンシップ参加後の意識の変化について教えてほしい。
- 概算で算出可能と思うが、現在インターンシップ参加割合データは持ち合わせていないため、キャリア教育センターで調整の上、後日報告したい。
- 琉球大学の学生の中で起業したものがあるか、キャリアデザインを構築したうえで、自身でスキルアップするような教育をされているかご教示願いたい。
- こちらも整理したうえで、後日報告したい。

### (3) 上原地区キャンパス移転の進捗状況について

大屋理事から、資料に基づき報告があった。

### (4) 病院における物価高騰等の影響について

大屋理事から、資料に基づき報告があった。

学外委員との間で以下のような意見交換があった。

- 地域の中核病院として新型コロナウイルス対応で大学病院が活躍しているにも関わらず、文科省から予算措置が無いことや、リスクリングについても、厚労省や経産省が配分していたりすることから、イギリスやフランスのように国立大学とは別な形での運営も考えられる。
- 全国医学部長病院長会議のアンケートの中で、国立病院機構のように、「国立大学病院機構」を作ってはどうかという話もある。
- 大学病院だけ別にしてはどうかという議論は、法人化直後からあった。経営改善係数が設定され大変苦しんだが、現場の皆さんの努力と、2010年の高度医療の診療報酬プラス改訂により、ようやく経営が安定した。  
過労死ラインを越えて働いている医師もおり、ブラック企業の最たるものだったが、今回の新型コロナ補助金についても、もらい過ぎと言われたりしているので、病院長先生には、頑張っ国民・政府の理解を得ていただく必要があると思う。  
大学病院だけ独立ということについて、軽率に結論は出せないが、それが議論されるほど切羽詰まった状況だと考えている。

### (5) 第3期中期目標期間（6年目終了時）に係る業務の実績に関する評価結果について

木暮理事から、資料に基づき報告があった。

学外委員との間で以下のような意見交換があった

- 非常によい結果だったが、法人運営化活性化支援の金額はいつ頃決まるか

→明確に示されていないが、前年度及び今年度と同規模の約6,400万円を見込んでいる。

### (6) 第4期中期目標・中期計画における意欲的な評価指標の指定について

木暮理事から、資料に基づき報告があった。

## 懇談事項

### 沖縄地域と大学の連携について

諸見里委員から、以下のとおり大学へ学生を送る立場からの提言があった。

#### 1. 知識重視から脱却した入学試験問題の作成

- ・現在、大学入試改革が鋭意断行されており、知識偏重から脱却し、思考力・判断力・表現力を重視した入試の在り方が模索されている中、琉球大学の入試問題を分析したところ、知識重視の入試問題となっていることが分かった。
- ・知識重視から脱却した試験問題の作成には、非常に労力がかかることは承知しているが、小中高でのアクティブラーニングを通して、思考力、判断力等を磨く試みが実を結びつつあり、更に人間性も踏まえて、「知識・技能」、「思考力・判断力」、「人間性」が、1：1：1となるように評価していただき、生徒たちの努力が報われることが望ましい。

#### 2. 総合的な探求の時間における学びの大学入試への反映

- ・総合的な探求の時間は、国語、数学、英語等の教科の垣根を超えた横断的な内容となって

いるので、一般入試に反映するのは難しいと思うが、総合型選抜の推薦文、面接、小論文に活かすことができるのではないかと。

- ・また、琉球大学では総合型選抜を3学部（教育学部、工学部、農学部）でしか実施していないので、文系学部にも拡大することが望まれる。

### 3. 成績上位層の県外流出に対するアクションプラン

- ・沖縄県内の高校生を県外の難関大学へ進学させるための給付型奨学金があり、琉球大学へ進学可能な学力上位層が県外に流出することに繋がる可能性がある。この制度に対して、琉球大学はアクションプラン等あれば伺いたい。

提言について、以下のような懇談があった。

→思考力・判断力をどう問うかということは難しい問題であるが、総合型選抜での入学について、採用している学部では数割を割り振っていきこうと考えており、総合型選抜を全ての学部で実施することについては、課題と感じている。

→小論文を課し、総合的に判断することも強めているが、客観的に評価を行うに当たっては相当努力しているので、高校校長協議会との意見交換も踏まえて実施していきたい。

→3つ目のご提言については、琉球大学をより魅力的な大学にしていく必要性を感じており、入試メンバーとは見やすい大学案内、アドミッション分野案内等作成し、高校生や保護者に、県外へ行かずとも琉大でも良い教育が受けられるということをアピールしていきたい。

○琉球大学の状況を大変羨ましく伺っていた。三重県では、高校卒業生のうち大学受験者の80%が県外へ進学し、三重大学卒業生のうち工学部生は90%が県外へ就職するという状況。三重県は地元大学に優秀な学生を残せないか考えているが、学生が都会へ出ていく流れを戻せない。

○東京都内にMITの研究所を招へいしたり、アメリカの大学のMBA講義をオンラインで受講させるという時に、OISTを協力校にするケースがある。国としてやや国内の大学を軽んじるような傾向が見られるので、沖縄県・OIST・琉球大学で、外国の大学院プログラムにアクセスできるような取組を行ってはどうか。

○シリコンバレーに税金で学生を送り込むのではなく、沖縄県でスタートアップしやすい拠点づくりを行って、本土の大学院生を引っ張ってこれるとよい。

○全ての分野を一挙にレベルアップすることはまず無理だと考えるので、OISTやハワイ大学ネットワークも含めて、1つ2つのとんがり研究を磨いていってはどうか。そのとんがりを若い人に琉大の魅力としてアピールしていくことが琉大に課せられた命題だと思う。

○国立大学という雑誌の表紙に、琉球大学工学部 玉城絵美教授が載っていて非常に嬉しく思った。こういうものをどんどん広報していけば、琉大に女子学生だけでなく、男子学生も含めて学生が増えていくんじゃないかと感じた。

最後に議長から、コロナの状況を見ながら、可能であれば9月14日の経営協議会は対面で実施したいとのアナウンスがあった。